

## 小金井市保育計画に係る主要な論点

## 1. これまでの経緯

子どもと子育て家庭を取り巻く環境の変化とともに、「子ども子育て関連 3 法」において保育の実施主体と位置づけられた基礎自治体である小金井市（以下「市」という）が担うべき役割はますます大きくなっています。こうした状況を踏まえ、市は平成 27（2015）年 3 月に「のびゆくこどもプラン小金井（現）」を策定し、「子どもの幸福と権利保障を第一として、小金井市の子育て、子育て支援の総合的な施策を推進していくこと」としています。

これと並行して、市内の保育所の設置主体に応じた保育の現状分析及び市が設置する保育所の管理運営等の在り方の検討を行い、今後の保育行政に広く意見を聴くため、「小金井市保育検討協議会」が設置され、市の保育行政を今後より一層充実させるための検討が行われ、平成 27（2015）年 12 月「今後の小金井市の保育行政のあり方に関する意見」として取り纏められました。

このような中、市民、保護者、そして市議会からも、市としての保育のビジョンの策定や保育の質の維持・向上への対応が求められており、これらの状況を踏まえ、平成 30 年 9 月に市長が、保育の計画と保育の質のガイドラインを策定する旨、表明しました。

## 2. 策定の趣旨

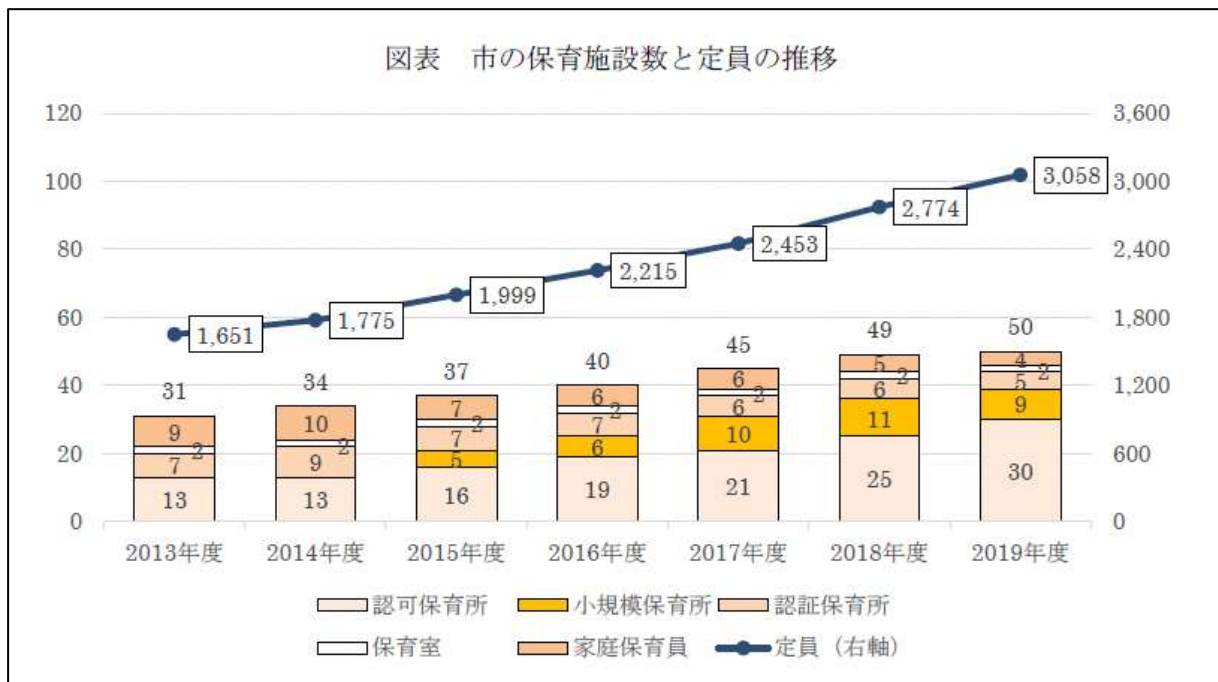
保育所等の保育施設とは、子どもの最善の利益に配慮しつつ、その健全な心身の発達を図ると同時に、保育する子どもの保護者、及び地域の子育て家庭に対する支援を行うことを目的としており、市の全ての保育施設も、こうした目的を理解し、使命感を持ってその業務にあたってきたところです。

これまで市では、保育所に入所できない、いわゆる待機児童の解消を喫緊の課題として優先的に取り組み、保育需要の見込みに対するサービス量を確保するべく保育施設の増加、及び多様化するニーズへの対応を取り進めてきました。かかる取り組みにより、保育の量については少しずつ改善が図られてきています。それとともに、国が定める保育の基準の下で、行われる保育事業の多様化と実施主体も多元化も進んできたところです。

これら多様化・多元化が進む中、子どもの最善の利益を最優先させるためには、「保育の質」の維持・向上を目指さなければなりません。「保育の質」とは、一例として挙げれば「子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験」であり、子どもを中心として、保育者一人ひとりの関わりのみならず、保育所、地域、自治体とが連携・協力し合っていくよう、努めなければなりません。

本計画は、そうした認識の下、保育を希望する家庭及びその子どもが等しく保育サービスを受けられ、子どもが健やかに成長できるよう、保育の質のガイドライン（保育の質の維持・向上に関して市全体で共通し得る枠組みをいう。）を検討するとともに、子どもの最善の利益

の観点から、保護者をはじめとした市民、保育・教育関係者、行政が子どもに向き合う際の視点を明確にして、今後の保育施策として取り組むべき方向性を示すものです。



※2019年度は見込み値

### 3. 保育の質の維持・向上

#### (1) 市内保育所の特色や取り組み状況

「今後の小金井市の保育行政の在り方に関する意見～小金井市保育検討協議会報告～」(2015年12月)、「のびゆく子どもプラン 小金井(現行・次期)」、同ニーズ調査、関連するアンケート調査、各種統計、適宜実態調査等をもとに、市の保育の特色や取り組み状況等を把握・整理します。

#### (2) 保育の質ガイドライン

市では、これまで「のびゆくこどもプラン 小金井」において、子どもの幸福と権利保障を第一に、子育て、子育て支援を推進していくことを基本理念とし、住民、関係機関・団体、行政など多様な主体が連携して、子育てと子育て家庭を支援する施策を推進してきました。2015年度からの「子ども・子育て支援新制度」でも、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の質の維持及び向上を図ることが必要であるとしており、保育ニーズの増大、家族形態や就労状態の変容など多様化する地域子育て家庭への対応など保育所等へ求められる役割も大きくなっています。

本市では、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を踏まえた環境の整備及び教育・保育の質の向上、幼稚園教諭・保育士の専門性の向上を目指してきましたが、本ガイドラインにおいては、子どもの最善の利益の観点から、保護者をはじめとした市民、教育・保育関係者、行政が子どもに向き合う際の視点を明確化するもので、検討・策定にあたっては、国の動向や先進自治体の先行事例を参考に取ります。

■保育所保育指針改定（2018年4月施行）

項目	内容
乳児・3歳未満児保育の記載の充実	この時期の保育の重要性、0～2歳児の利用率の上昇等を踏まえ、3歳以上児とは別に項目を設けるなど記載内容を充実。（特に、0歳児の保育については、乳児を主体に「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から整理・充実。）
幼児教育の積極的な位置づけ	保育所保育も幼児教育の重要な一翼を担っていること等を踏まえ、卒園時までに育てほしい姿を意識した保育内容や保育の計画・評価のあり方等について記載内容を充実。主体的な遊びを中心とした教育内容に関して、幼稚園、認定こども園との整合性を引き続き確保。
健康及び安全の記載の見直し	子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえ、食育の推進、安全な保育環境の確保等に関して、記載内容を見直し。
「子育て支援」の章を新設	保護者と連携して「子どもの育ち」を支えるという視点を持って、子どもの育ちを保護者とともに喜び合うことを重視するとともに、保育所が行う地域における子育て支援の役割が重要になっていることから、「保護者に対する支援」の章を「子育て支援」に改め、記載内容を充実。
職員の資質・専門性の向上	職員の資質・専門性の向上について、キャリアパスの明確化を見据えた研修機会の充実なども含め、記載内容を充実。

4. 市の保育施策の現状と課題

(1) 待機児童の解消に向けた状況

待機児童の減少に向けて、保育園の新園開設等による定員確保策を進めており、市の待機児童は88人（2018年4月）と一年前の156人より減少しています。減少要因としては、2018年4月までに5園の新設及び既存園の定員拡充を行ったことによるものと考えられます。

他方、母親の就労率はこの数年、顕著に増加していることから、保育ニーズに対する量的増加が見込まれます。小金井市子ども・子育てに関するニーズ調査（2018年11月、未就学児の保護者対象）によると、子どもを保育所に入れるための活動と結果について、大変不満が21.4%、少し不満が16.0%となっており、不満の理由として約6割の保護者が「希望する保育所に入れなかった」と回答しています。申込者の多くが特定教育・保育施設への入所を希望していること、また、母親の就労率の更なる上昇を踏まえつつ、地理的バランス等を考慮しながら引き続き定員確保策を推進していく必要があります。

(2) 多様な保育ニーズの充足に向けた状況

就労形態の変化や核家族化にともなう保育ニーズの多様化に対応するため、これまで本市では、多様化する保育ニーズに対応し、様々な保育サービス、子育て支援等に関する情報提供や相談等を行うため、保育所申請窓口には保育所等入所相談支援員を配置し、2014年度から実施をしています。

しかし、今後の小金井市の保育行政のあり方に関する意見（小金井市保育検討協議会）によると、「多様なニーズ」への対応状況について、市は予算上の問題や体制上の問題から十分に対応できているとは言いがたい現状があると指摘されています。小金井市子ども・子育てに関するニーズ調査（2018年11月、未就学児の保護者対象）によると、市や地域で充実し

て欲しいこととして、経済的負担の軽減 47.1%、子どもの居場所と交流の場の充実 42.4%、子どもが安心して学べる環境の整備 34.9%、子育て・子育てしやすい生活環境の整備 34.3%が上位を占めています。

これら多様なニーズへの対応については、主に次期「のびゆくこどもプラン 小金井」において位置付けられることとなりますが、本計画の中では、市全体の保育における施策の方向性について、示していく必要があります。

#### 5 今後の施策の方向性について

保育の質の維持・向上の推進に向けた取組や体制づくりなどについて、整理します。

上記の現状と課題、また保育ニーズ等を踏まえ、施策の方向性について取り纏めます。

また、行政、公立・民間それぞれに期待される役割について整理します。

## 小金井市保育計画の内容案（たたき台）

### 第1章 保育計画策定にあたって

- 計画策定の背景と目的
- 計画の位置づけ

### 第2章 保育・子育て支援の現状と課題

- 子育てをめぐる現状
- 保育における現状と課題
- 将来予測（見通し）

### 第3章 小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと

### 第4章 保育の質の維持・向上に向けた取組（保育の質のガイドライン部分）

### 第5章 今後の施策の方向性について

小金井市保育計画策定のスケジュール案（たたき台）

回	年月日	主な検討内容
1	2019年3月25日	○策定委員会の運営について ○小金井市保育計画に係る主要な論点について ○小金井市保育計画の大項目（案）について ○今後のスケジュールについて
2	2019年4月中旬	○保育の質のガイドライン・イメージについて ○保育園等への簡易アンケート（記述式）について ○今後のスケジュールについて
3	2019年5月下旬	○保育の質のガイドラインについての検討・協議（1）
4	2019年6月中旬	○小金井市保育に関する現状と課題分析報告 ○「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について ○保育の質のガイドラインについての検討・協議（2）
5	2019年7月中旬	○小金井市の保育の状況調査（保育園等への簡易アンケート結果を含む）の結果報告 ○調査結果と課題分析を踏まえ質のガイドラインの検討（1）
6	2019年8月下旬	○調査結果と課題分析を踏まえ質のガイドラインの検討（2）
7	2019年9月中旬	○調査結果と課題分析を踏まえ質のガイドラインの検討（3）
8	2019年10月上旬	○今後の施策の方向性についての検討（1）
9	2019年10月下旬	○今後の施策の方向性についての検討（2）
10	2019年11月中旬	○今後の施策の方向性についての検討（3）
11	2019年12月中旬	○小金井市保育計画の素案について
12	2020年1月中旬	○小金井市保育計画に関するパブリックコメント実施について
13	2020年2月中旬	○小金井市保育計画の修正について
14	2020年3月中旬	○小金井市保育計画の最終稿について